

平成29年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成30年4月9日
研究・研修課題名	国立がん研究センターがん対策情報センター主催 ・平成29年度 がん相談支援センター相談員指導者等スキルアップ研修 ～高齢がん患者と家族の伴走者を目指して～ ・平成29年度がん相談支援センター相談員継続研修（認定更新コース）
研究・研修組織名（所属）	医療サービス課（がん患者・家族サポートセンター）
研究・研修責任者名（所属）	今岡佐織（医療サービス課 がん患者・家族サポートセンター）
共同研究・研修実施者名（所属）	今岡佐織（医療サービス課 がん患者・家族サポートセンター）

目的及び方法、成果の内容

① 目的

国は、がん対策基本法（平成18年法律第98号）がん対策推進基本計画（平成24年6月8日閣議決定）に基づき平成30年4月現在、全国にがん診療連携拠点病院401病院、地域がん診療病院25病院を指定している。がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（平成26年1月10日付健発0110第7号）には要件や役割が示されており、それに基づき各拠点病院では、全国どこでも質の高いがん医療を提供できるよう医療体制の均てん化を進めている。

当院は島根県都道府県がん診療連携拠点病院に指定されており、国の施策や島根県が策定した「がん対策推進計画」に基づき、関係機関や県内がん診療連携拠点病院等と連携をとりながらがん医療に取り組んでいる。

都道府県がん診療連携拠点病院の相談支援機能強化に向けた要件のひとつに、地域拠点病院、特定領域拠点病院、地域がん診療病院の相談支援に携わる者に対する継続的かつ系統的な研修を行うこと、とある。県内どこでも安心してがん相談が受けられる体制づくりには、がん相談員等の資質向上や質の担保が重要であり、相談員への継続的かつ系統的な研修が必要と考える。

そこで、私は島根県の高齢化率の高さに着目し、「高齢者のがん」に焦点をあて、がん相談支援センター相談員指導者等スキルアップ研修受講によって、相談員が相談対応で求められているトピックスや、相談対応の質向上を図るための必要な視点・考え方を学び、県内がん相談員等研修会の企画運営に活かすこととした。

また、私は現在「国立がん研究センター認定がん専門相談員」でありがん相談支援センター相談員継続研修（以下継続研修）の受講が、認定更新の必須となっている。継続研修は、がん相談支援業務を行う上で必要とされる最新のがん対策の動向やがんの標準治療等に関する知識・情報をEラーニングで学ぶ内容となっている。今回受講した指導者等スキルアップ研修も、この継続研修受講が必須となっている。これら2つの研修受講内容を取り入れつつ、県の相談員研修を企画していくこととする。

② 方法

1) 平成29年度 がん相談支援センター相談員継続研修（認定更新コース・Eラーニング形式）26科目の学習コンテンツ（各60分程度）と同テストコンテンツ（各10問程度）を通して、がん相談支援業務を行う上で必要とされる最新のがん対策の動向やがんの標準治療等に関する知識・情報を学ぶ。

[プログラム]

- 基礎研修 (1) (2) 該当11科目 ・がん対策 ・相談支援 ・社会資源 ・緩和ケア ・がん検診
・支持療法 ・臨床試験 ・肺がん ・乳がん ・大腸がん ・血液がん
- 基礎研修 (1) (2) 以外15科目 ・がん登録 ・放射線療法 ・がん薬物療法 ・がんと就労
・がん患者の外見ケア ・地域包括ケア ・高齢者とがん ・病気の子どもにとっての教育病気療養中/入院中/退院後の教育の制度や体制 ・晩期合併症 ・膵がん ・婦人科がん ・前立腺がん ・膀胱がん ・希少がん I ・希少がん II

2) 平成29年度 がん相談支援センター相談員指導者等スキルアップ研修 ～高齢がん患者と家族の伴走者を目指して～ の受講前に、継続研修(認定更新コース)の「高齢者のがん」の科目を受講する。(受講必須要件)

3) 平成29年度 がん相談支援センター相談員指導者等スキルアップ研修 ～高齢がん患者と家族の伴走者を目指して～ (2017年06月09日(金)09:30～17:30 国立がん研究センター築地キャンパス グループワーク・講義形式)を受講する。

[プログラム] 2017年06月09日(金)09:30～17:30

- ・オリエンテーション
- ・演習(日頃の相談支援の振り返り)
- ・ミニ講義(高齢がん患者と家族のアセスメントの視点と相談員の関わりに必要な要素)
- ・演習(高齢がん患者と家族の伴走者として明日から取り組めること)
- ・講義(腎性の最終段階の医療ケア)
- ・演習(事例をもとにしたアセスメント・支援計画の検討)
- ・全体共有/全体総括(本日の振り返り)
- ・おまけ(地域開催に必要な視点)
- ・修了証交付

4) 島根県がん対策推進協議会 島根県がん相談員実務担当者会で今回受講した研修報告を行ない、平成29年度の相談員研修内容について協議する。

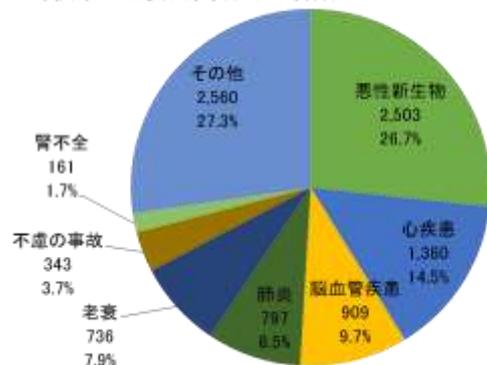
5) 県内がん相談員実務担当者会会員とともに研修会計画立案を行い、研修会を開催する。

③ 成 果

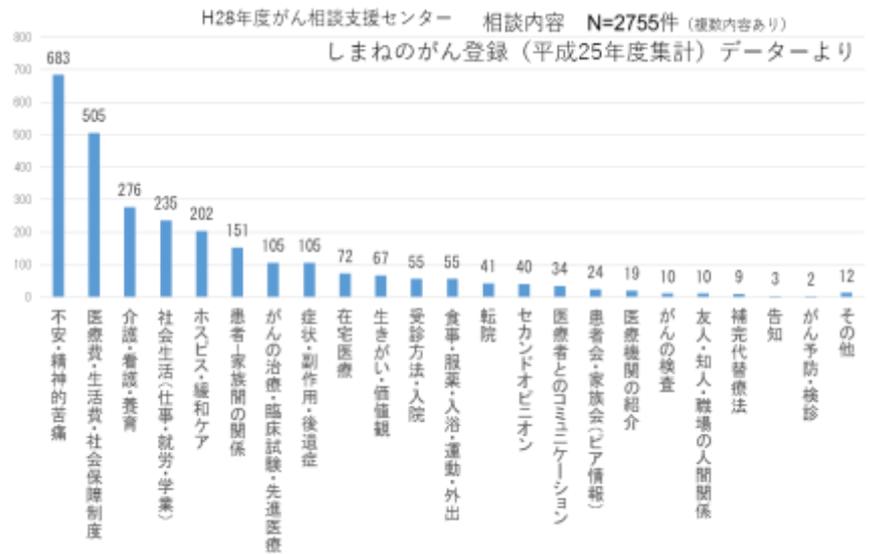
島根県の人口は平成28年10月1日現在、島根県統計調査課によると684668人、65歳以上の高齢者人口は、225394人、高齢化率は33.1%で全国第3位(平成29年4月総務省統計局発表)であり、全国上位の高齢県といえる。

県では急速な高齢化の進展に伴い、がんによる死亡率は増加傾向にある。島根県島根県では昭和59年より死亡原因第1位は「がん」で、右グラフで島根県の主要死因別死亡者数が示すように、がんによる死亡者数は2500人程度となっている。

・島根県 主要死因別死亡者数 N=9369



右のグラフは平成 28 年度当院のがん相談支援センター相談内容のグラフである。相談内容は①精神的苦痛 ②医療費・生活費 ③介護・看護の順となっている。高齢者で相談に来られるのなかには、高齢者世帯や独居のかた、高齢者であるため加齢に伴い「がん」だけでなく他の疾病も罹患している場合もある。高齢者の場合、体調面の不安だけでなく、同居家族の介護、年金生活のみのため経済的負担の増加、通院方法の問題、介護サービス等の利用、居住地域によっては社会的資源の不足など、生活上の課題を抱えていることも多く、相談内容は多岐にわたるケースが多い。



島根県の高齢化の現状や、相談対応でよくある相談内容を踏まえ、県内の相談員もほぼ同じような相談を受け、高齢がん患者の相談で感じる困難等があると仮定し、国立がん研究センターがん対策情報センターの研修受講を希望した。

今回受講した研修は、全国的に超高齢社会を迎えているなかで「高齢者ががんになること」を身体的・心理的側面、高齢者本人だけでなく家族のことなど様々な側面から考え、必要な支援について学び、相談対応で求められているトピックスや相談対応の質向上を図るための必要な視点・考え方を知るという研修内容であった。

研修のトピックスとして、「フレイル」という概念が存在すること、高齢者の加齢に伴う生理的変化は多様であり、治療計画を立てる上で予備能力を評価する方法も実施すること、実際の年齢ではなくその方のフレイルの程度が大変重要であること等を学んだ。

相談対応の質向上を図るための必要な視点・考え方として、高齢者に多い認知機能障害に伴う意思決定支援について取り上げられ、患者さんの価値観・死生観・人生の目的等を医療スタッフや家族、他の重要他者と共有することも大事であること、意思決定のプロセスを大切にすることは患者さんの尊厳を大切にすることにつながることも学んだ。

また相談員は患者さんや家族の伴走者として今ある現状を把握し、今後の予測をしながら適切な距離を保ちつつ、相談者のからだ・こころ・くらしの状況にあわせ一緒に走る相談員の役割について再認識した。

継続研修ではEラーニングによる計 26 科目の学習コンテンツと同テストコンテンツを通して、がん相談支援業務を行う上で必要とされる最新のがん対策の動向やがんの標準治療等に関する知識・情報を学び、相談員の研修や相談業務にも活用できる各領域の知識、情報を得るための方法、情報源について理解を深めることができた。

これら 2 つの研修受講後、本年度の島根県のがん相談員等の研修会内容を計画立案するにあたり、平成 29 年度第 1 回研修会は「小児がん」をテーマに開催予定であったことを考慮し、第 2 回を「高齢者のがん」をテーマに研修会開催をすることでライフステージごとのがん相談に取り組み、系統的な研修になると思われた。また県内相談員は高齢者に関わる人が多いため、相談場面のイメージがつきやすく、困りごとなど相談員が抱えがちな日々の経験を言語化しやすいこと、相談員の役割の再認識も本研修のなかに盛り込むことが可能と考えた。

その後がん相談員実務担当者会で研修報告を行い「高齢者のがん」をテーマに研修会を開催することが決定し、実務担当者会会員が中心となって企画運営を行った。がん相談実務担当者会会員へ相談員が感じる困りごとの調査を行い、その結果に基づき、高齢がん患者の意思決定を支援するために、相談員として必要な視点・知識を学び役割を考えることを目的とした、第 2 回島根県がん相談員等研修会を開催した。

研修では県内がん相談担当者約 50 名の参加者があり、研修後の感想として、とても身近なテーマで入りやすかった、高齢者の意思決定支援は難しいが相談員としての役割を担いながら一緒に考えていきたい等の感想をいただいた。

今回 2 つの研修を受講し、実際に研修会企画に携わるなかで、受講したプログラムをそのまま開催するのではなく、国や県のがん対策に基づき、地域性を考慮した内容を検討すること、相談員の課題抽出から、地域での課題を発見し、研修内容の充実を図る必要性を学ぶことができた。今回の研修参加者の意見を次年度以降の研修に活かし、島根県内のがん相談員を対象とした継続的かつ系統的な研修開催を実施し、相談員だけでなく研修会の質の向上も図っていきたいと考えている。